

日時 7月19日(月)「赤穂高生650人防災学ぶ～防災士の会が出前講座～」(7/29神戸新聞掲載)

7月19日(月)赤穂防災士の会の出前講座について、リモートによる「防災教室」を本校HR教室にて行われました。

災害時の対応力を高めるため、ゲーム形式で「クロスロード」の問いに答え、「もしも」に備え学習を行いました。正解のない問いについて、まず、各自で考え回答をする。次に、それらについて、グループでそれらの回答について、議論する。最後に、対応策である答えを、よりベターな答えを行うという方法です。この訓練は、災害時での対応策を考え、それを実行するという目的で行います。その際、相手の意見を尊重し、最適解をもとめるところです。

生徒会長吉村君は「この経験を災害が起きたときに生かしたい。」と感想を述べるなど取材を受けていました。なお、神戸新聞に掲載されましたので、その記事を載せておきます。

神戸新聞 2021年(令和3年)7月29日 木曜日

赤穂高生650人防災学ぶ

防災士の会が出前講座

赤穂市海浜町の赤穂高校で、全日制の全校生約650人がオンラインによる防災教育出前講座を受けた。災害時の対応力を高めるゲーム「クロスロード」の問いに答え、「もしも」の場合に備えた。正解のない問いを考え、災害時に生かそうと西播磨県民局の防災教育出前講座を活用。赤穂防災士の会の9人が放送室と17教室に分かれ、学習を手助けした。

「3千人がいる避難所で食料は2千食。まずは配る？」との問いに、1年1組では「子どもや高齢者に届くとは限らず、配らない」という声の一方で、「体力がない人に優先して配る」との意見も。異なる主張を尊重し合った。

生徒会長で2年の吉村有輝也さん(17)は「判断は難しかったが、この経験を災害が起きたときに生かしたい」と話した。(坂本 勝)

大規模災害時に取る行動について意見を交わす生徒ら 赤穂高校

